

山口県病院協会 会報

2017 **4月号** No.55

- 発行日 平成29年4月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人社団生和会 徳山リハビリテーション病院

〒745-0851

山口県周南市徳山626番地

電話 0834-33-7770

FAX 0834-33-7750

URL: <http://www.tokuyama-rh.jp/>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介.....	2 ページ
協会役員コーナー.....	3 ページ
病院スタッフコーナー.....	4～5 ページ
四県病院協会連絡協議会報告.....	6 ページ
研修会報告.....	6～7 ページ
医療経営講習会報告.....	8 ページ
諸会議報告.....	8 ページ
事務長部会コーナー.....	9 ページ
お知らせコーナー.....	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶 ～リハビリテーションを通して地域に貢献する～



医療法人社団生和会
徳山リハビリテーション病院
病院長 津波 満

徳山リハビリテーション病院は平成24年4月に周南市内に120床で開院して、今年が6年目になります。

「高度なリハビリテーション医療を真心こめて」という理念の下、職員が一丸となって、急性期病院から紹介いただいた患者さまを中心に、回復期のリハビリテーション（以下リハビリと略）を行ってきました。

これまで退院した患者さまが1,843名となり、その8割以上が自宅退院という結果を得ました。今後は、この結果に満足することなく、入院された患者さまの諸々の希望に応じて、それが達成出来るように、リハビリの内容も、更に工夫していかなければなりません。

これまでの経験を通して、課題と感ずることは、高次脳機能障害と上肢の麻痺に対するリハビリです。これらについては、尚一層の工夫が必要と感じています。

また、退院時の課題としては、車の運転と復職が挙げられます。車の運転に関しては、ドライブ・シミュレーターを使った模擬訓練による評価を行っていましたが、今年は運転教習所での実地の訓練も加味して、より安全・確実な運転技術の確保に努めたいと考えています。

また、復職訓練については、入院リハビリに加えて、職場の理解・協力、院外の訓練施設や行政の協力が欠かせません。この点は、今後も院外の諸機関と協力して、患者さまの要望に応じていきたいと考えています。

まだ、開院して間がない当院ですが、これからも、我々の得意とする分野を中心に、地域医療に貢献していきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

<徳山リハビリテーション病院の現状>

1) 概要

開設者	医療法人社団 生和会 理事長 福澤 正洋
住所	山口県周南市大字徳山626番地
T E L	0834-33-7770
F A X	0834-33-7750
E-mail	office@tokuyama-rh.jp
U R L	http://www.tokuyama-rh.jp
病院長	津波 満
診療科	内科、リハビリテーション科
病床数	120床（回復期リハビリテーション病棟入院料1）
院内施設	在宅支援センター（訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所）

関連病院施設

【山口県内】

周南リハビリテーション病院、周南リハビリ元気村、住宅型有料老人ホームなごやかケア本館、住宅型有料老人ホームなごやかケア別館、グループホーム和み、グループホーム和み福谷の森、介護老人保健施設なごやか熊毛、サービス付き高齢者向け住宅なごやか熊毛

【山口県外】

彩都リハビリテーション病院、登美ヶ丘リハビリテーション病院

2) 沿革

平成24年4月	周南リハビリテーション病院の120床を分床し開設
平成25年2月	全120床回復期リハビリテーション病棟入院料1施設基準取得
平成25年10月	訪問リハビリテーション開始
平成25年12月	居宅介護支援事業所開設
平成26年8月	在宅支援センターオープン
平成26年8月	通所リハビリテーション開始

3) 特徴

当院は、四季折々の花木が美しい周南市の万葉の森に隣接し、豊かな自然を感じながら、家庭復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に行っている病院で、医師、看護師、介護士、セラピスト、管理栄養士、社会福祉士等多職種にてチームをつくり、スタッフ全員がリハビリテーションマインドを持って業務に取り組んでいます。平成29年1月末現在、理学療法士34名、作業療法士27名、言語聴覚士13名在籍しています。

今後とも、各医療機関との連携を密にし、地域に必要とされる医療サービスを提供してまいります。

協会役員コーナー

AIが医療現場にやってくる



社会医療法人同仁会
周南記念病院

理事長 竹重 元寛

卒業して外科医局に入局した時代に、紙カルテの不備な記載を講師にチェックされ、一言二言注意されていた42年前を懐かしく思い出しながら、ペンを取ってみました。電子カルテが導入されて、便利な世の中になったものだと、痛感していた矢先、なんと、毎日のように新聞にAIの記事が掲載されるようになりました。IoTなどの先端技術を組み合わせて産業構造の転換を図る技術革新である第4次産業革命が医療現場にやってくる時代が到来しました。ロボットが持つタブレットで受付から、予診も同時に行い、問診も行い、タブレット画面に記録されていた患者の情報、画像の表示を見ながら、鑑別診断も可能で、経験の浅い若い医師には人気で、診断も回り道をしなくて正確にできるようになるそうです。事務員、外来クラークもアンドロイドが代行し、経営者にとっては人件費の削減になります。デジタル難民が増えるかもしれませんが、遠い夢話では

なく、研修医や若い医師が働きやすくなることは間違いないようです。

石黒浩氏の「アンドロイドは人間になれる」を読んで、多々考えることがありました。いろいろな問題があると思いますが、人間が会得した科学の力、そしてこの技術革新は留まることを知らないでしょう。AIの是非についてはいろいろな意見があると思いますが、AIに人間が支配される世界にならないことを医師である私達は十分理解して医療現場に役立てたいものです。

医療において工学系の先生から学んだこと



一般社団法人岩国市医師会
岩国市医療センター医師会病院

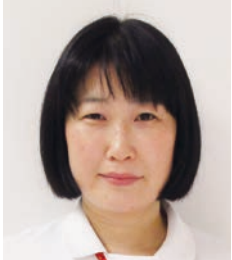
前病院長 内山 哲史

平成14年4月に院長になってから、病院運営にどのように関わったら良いか考えている時に、NDP（National Demonstration Project on TQM for Health、医療のTQM実証プロジェクト）に参加させてもらう機会に恵まれた。ここでは医療関係者と、品質管理の専門家がメンバーとなっていた。これらの品質管理の専門家は工学系であり、医療系の考え方になじんでいたところに新たな視点を教育された。標準化の考え方においては、医療は人を扱うので画一的な考えはできないと漠然と思っていたが、工学系の先生は、医療の全てが標準化できないのではなく、標準化できるところとできないところをきちんと区別して考えるように言われ、徹底的に理論的に考えることの重要性を教えられた。医療ではクリニカルパスがあるが、治療中に発生した合併症や予期しない変更に対応できずバリエーション症例になってしまうことが少なからずある。これに対応する為に東京大

学の飯塚教授を中心として患者状態適応型パス（PCAPS：Patient Condition Adapted Path System）が開発されている。ここでは治療プロセスを複数のユニットに分け、患者の状態を判断してそれぞれのユニットに進むようにし、バリエーションを少なくするように設計されている。これも理論的思考の例と思う。飯塚先生は頭が良いとはどういうことかという話もされた。①記憶力が良いこと②目的が分かっていること③因果関係が分かっていること④複雑な状況からその本質を把握、適応でき、一般化・抽象化できること等を言われたが、この内目的が分かっていることの重要性が印象的であった。我々の目的は「患者の為に安全で質の良い医療を行うこと」を常に意識してこれからも医療を行いたいと考える。

病院スタッフコーナー

地域に根ざした看護



周防大島町立
東和病院

副看護部長 小原 知子

当院は山口県の東部にあり、瀬戸内海で3番目に大きい島にあります。島の高齢化率は50%を超えており、外来の受診患者さんも80～90歳代が多く、お互いが支えあいながら生活していることが見受けられます。また地域包括ケア病床が併設され、在宅、施設入所までを安心して過ごせるように、医師、看護師、リハビリ、地域連携室と連携した取り組みを行っています。

私は、外来看護師として勤務しています。受診された患者さんへ「お変わりないですか」と必ずお声掛けをしています。1人1人と接する時間は少ないですが、患者さんの状態把握、病気だけではなく、不安な気持ちなど思いを汲み取れるように心がけています。患者さんと医師とのコミュニケーションの橋渡しとなれるような看護をしたいと考えています。1人の看護師として医師のように、かかりつけ医とはいきませんが、かかりつけの科の看護師さんと認識され、何でも相談して頂けるようにしていきたいと思っています。

また、訪問診療にも携わっています。地域の訪問看護師からご自宅での様子について情報提供を受け、在宅で療養されている患者さんの所に伺うことで、より適切な観察を行い、医療の提供ができるようにしています。病院内だけでは見えてこなかった患者さんの様子、家族の思いを感じる場面も多くあります。訪問看護、ケアマネ等と連携し、住み慣れたところで暮らせるような医療に貢献したいと思います。

テニスと恋ダンス



医療法人若草会
小郡まきはら病院
デイケアセンター長

作業療法士 倉元 泰彦

デイケアで勤務する私は、利用者と様々な活動を共にすることで、その方の変化や成長を見守っています。当デイケアは利用者が若いこともあり、スポーツ活動が盛んで、利用者の要望でバスケやフットサルもあります。特にバレーボールでは、選手の9割を利用者で構成する県代表チーム（山口県精神障害者バレーボール連盟）が、2015年に念願の全国大会出場を果たしました。私自身「業務」と称して様々なスポーツに触れ、体を動かす事で誰よりも楽しませて貰っています。

最近ではリオ五輪の錦織効果で「テニス」が人気で、参加者数はもちろん利用者のマイラケット人口が増えています。その熱に負けじと、私も昨年秋よりプライベートで片倉病院さんのテニス部にお邪魔させてもらい、こっそりと練習を積んでいます。片倉病院の皆さん、デイケア共々お世話になっております。

話は変わりますが、昨年末は「恋ダンス」の練習に明け暮れました。デイケアのクリスマス会や病院忘年会の余興のためです。スタッフ5名で企画したのですが、全員が揃って練習した数回以外は、ネット動画での自宅練習が基本で、ほぼ修行のようでした。しかしステージ後の達成感とは他と代え難いものでしたし、何より利用者や同僚に喜んでもらった事が幸せでした。

2016年は熊本地震に始まり、豊洲移転問題、トランプ氏…と世間的にも大変でしたが、当院では4月に開設者である牧原浩が他界し病院全体が悲しみに暮れた1年でした。利用者スタッフ共に重苦しい空気が続きましたが、日々の活動の中でそれぞれの平穏を取り戻していったと思います。私は「テニス」と「恋ダンス」に救われた1年でした。また2つの活動のきっかけはデイケアやその利用者であり、普段支えているつもりが、逆に支えられることが多いなと改めて実感しました。

病院スタッフコーナー

違うからおもしろい多職種連携



地方独立行政法人
山口県立病院機構
山口県立こころの医療センター
主任

作業療法士 石原 弥生

「患者の病態や生活能力に応じたりハビリテーションが多職種チームにより行われているか？」と病院機能評価を機に現状を見直し、立ち上がったのが『病態別専門治療プログラムワーキンググループ』です。副院長を中心に多職種スタッフでの協議を繰り返し、多職種スタッフによる専門治療プログラム【オレンジCafe♪こころ（認知症専門プログラム）】、【やわらかあたまサロン（メタ認知プログラム）】、【空飛ぶ☆ダンボ（地域移行促進プログラム）】、【高次脳機能障害ショートケア（高次脳機能障害対象プログラム）】が平成28年度から動き出しました。

医局会や病棟カンファレンス、院内研修会、院内だより等、いろいろな機会を通じてスタッフへの周知を図り、意見を交わしながら進めてきました。プログラムを進めていく中で、患者さんの意外な強みに気づき、さらなる課題を見つけ、「ならば、こんな工夫を加えてみては」と喧嘩がぐがぐできるのも、視点や強みが違う多職種ならではのおもしろさです。専門性の違いを存分に楽しみながら活かしながら、患者さんと共に、プ

ログラムもスタッフも成長中です。

「こんなプログラムが提供できたらいいな」「患者さんの力や笑顔を引き出したい」そんな夢や想いを大切に、息切れしないよう基礎体力としての実践や知識をしっかりと身につけつつ、病態や個々のニーズに応じたりハビリテーションを多職種連携しながら提供していければと思っています。

地域密着病院を目指して



一般社団法人巨樹の会
下関リハビリテーション病院
医療連携室長

社会福祉士 中板 留美

当院は下関駅から徒歩5分の場所に位置し、165床全てが回復期リハビリテーション病棟の病院です。地域の医療・介護・福祉施設と緊密な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる地域リハビリテーションの中核病院を目指しています。

私たち医療連携室のスタッフは、脳卒中や骨折、心臓疾患等の急性期治療を終えリハビリが必要な患者の受け入れを断らないという信条のもと、一日でも早くリハビリが行えるよう迅速な対応を心がけています。また入院後も入院当初から社会福祉士が関り、安心して当院を退院できるようお手伝いをさせて頂いています。具体的には経済的な問題や介護の問題、復職や復学、中には身寄りがない、帰る家がない…など様々な問題を

抱えた患者や家族に寄り合いながら、共に問題に向き合い解決できるように支援しています。時にはどうしたら良いかわからず頭を抱えてしまうような困難な問題に直面することもあります。患者の描く理想を限りなく追求し、あらゆる制度やサービス、行政機関や人を含めた様々な社会資源を活用しながらその方なりの安心した生活が送れるよう支援を行っています。

今後も患者・家族が安心してリハビリを行い、笑顔で満足して地域に帰って頂くための架け橋としてなお一層努力していきたいと思っています。

四県病院協会連絡協議会報告

平成29年1月27日（金）、広島市のホテルグランヴィア広島において、岡山・広島・山口・福岡四県の第22回四県病院協会連絡協議会が開催された。

当日は、山口県病院協会より木下会長他計4名が出席し、他県からの役員18名を合わせて、総勢22名が一堂に会した。

最初に各県病院協会の事業実施状況について説明があり、続いて各県が提出した議題等について意見交換が行われた。

各県病院協会が提出し意見交換された議題は次のとおり。

- | | |
|---|-----------------|
| 1) 各県病院協会の事業実施状況について | (各県資料交換・特記事項説明) |
| 2) 地域の病院に若い医師をとどめる方策はあるのか？ | (山口県提案) |
| 3) 医療事故調査制度施行1年後の現状 | (福岡県提案) |
| 4) 地域医療構想調整会議の進捗状況について | (岡山県提案) |
| 5) 地域医療構想（構想区域設定、必要病床数、病床機能分化・連携促進基盤整備事業等）について
広島県の地域医療構想への会員病院対応状況アンケートについて | (広島県提案) |
| 6) その他
各県の地域医療構想の進捗状況について | |



研修会報告

平成28年度 病院医療事務担当職員研修会

平成28年12月7日（水）山口県セミナーパーク講堂において、病院医療事務担当職員研修会が開催され、141名の参加があった。

研修会に先立って中国四国厚生局山口事務所の審査課長岩本正樹氏による「病院施設基準の手続きについて」の制度説明が行われた。

引き続き、以下の講演があった。

【研修会】

テーマ 「平成28年度診療報酬改定に伴う査定、減点対策
～査定・減点、審査の現状～」

講師 メディカル21

医療実務研究会

代表 村上 佳子 氏



村上 佳子氏

講師の村上氏は、病床の機能分化・連携の促進など28年度診療報酬改定の基本的な考え方をふまえ、査定や返戻の対象となる具体例について解説された。講演前に行われた中国四国厚生局からの制度説明と併せて、参加者にとって理解の深まる研修会となった。



研修会風景

研修会報告

平成28年度 病院看護補助者・介護職員研修会

平成28年12月14日（水）山口県総合保健会館第1研修室において、病院看護補助者・介護職員研修会が開催され、178名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「病院内における接遇マナー ～おもてなしの心を相手に伝える表情や言葉の選び方～」

講師 有限会社ケイ・アンド・ワイ
人材育成部門主任講師 温品 富美子 氏



温品 富美子氏

テーマ 「認知症高齢者の行動・心理症状の真意を理解しよう
～「なぜ？どうして？」を「そうなんだ！」に替えて
ストレスマネジメント～」

講師 医療法人愛の会
光風園病院
看護統括部長 中尾 郁子 氏



中尾 郁子氏

病院・福祉施設での研修実績も多い温品氏は、人間関係で仕事は動く、对患者・対職員どちらの関係も大切とし、コミュニケーション力を高める数々のトレーニングを実施された。

中尾氏は最初に認知症のタイプや特性について解説された。後半では、患者の不安を解消する関わり方が問題解決の近道であるとし、看護補助者にかかるストレスをコントロールしていけるよう指導され、参加者たちは日々の業務に活かすべく真剣に受講していた。



研修会風景



医療法人愛の会
光風園病院

介護職 松本 美咲

～病院看護補助者・介護職員研修会に参加して～

今回は、「院内における接遇マナー」と「認知症高齢者の行動、心理症状の真意を理解しよう」の2つの講習で多くのことを学びました。

接遇マナーでは、身だしなみや正しい言葉遣いなどの知識について講義を受け、さらに、受講者同士で会話をして相手の話に合わせて相槌をうつ、頷くといった方法を実践することで、接遇マナーを理解することができました。

実際に話の間で相槌や頷きを入れてもらうことで、「こんなに話しやすく、気持ちよく感じるものなのか」と改めて感じることができました。

私は普段から、患者さんの表情や動き、様子をうかがいながら会話しケアにつなげています。患者さんも同じように、介護する私の表情や動きを感じて、「安心して話ができる人なのか、信頼できる人なのか」判断しているかもしれません。患者さんにとって信頼できる介護職員になるためにも、接遇マナーをしっかりと身につけたいと思いました。

また、認知症患者の行動、心理症状の理解では、認知症の種類とそれぞれの症状の特徴を詳しく学ぶことができました。

今までは、大まかに「認知症の症状」として捉えていましたが、詳しく知ることによって「もしかして認知症の症状かもしれない」と気づくことができ、早期に適切なケアを行うことができました。

私が勤務している病棟にも認知症の患者さんが多く、日々対応が大変ですが学んだことを活かし患者さんが安心できるようなケアを提供していきたいと思っています。

医療経営講習会報告

平成28年度 冬季医療経営講習会

平成29年2月24日（金）、山口グランドホテルにおいて平成28年度冬季医療経営講習会が開催され、57名の参加があった。

テーマ・講師は以下のとおり。

テーマ 「熊本地震を経験して」

講 師 公益社団法人 熊本県医師会 副会長
国保水俣市立総合医療センター 病院事業管理者
坂本 不出夫 氏

講師の坂本氏は、情報や命令系統の混乱、県と政令指定都市の二重行政の壁などの問題に直面された経験から、大規模災害における医療救護活動の有り方について講演された。

特に重要さが実感された情報伝達や指揮命令系統、他団体との連携などについては研修を重ねられているとの事で、参加者達にとって、今後の備えの参考になる講演となった。



坂本 不出夫氏



講習会風景

諸会議報告

平成28年度 第5回理事会

日 時 平成29年1月19日（木）16：30～17：30

開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 「第21回日本医業経営コンサルタント学会広島大会」に対する後援について

【協議事項】

1. 平成29年度定時総会特別講演について

【報告事項】

1. 会員退会について
2. 冬季医療経営講習会について
3. 事務長部会研修会について
4. 第12回医療関係団体新年互礼会について
5. 第22回四県病院協会連絡協議会議題について
6. 山口銀行との金融懇談会について
7. 県医師会役員との懇談会について
8. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県訪問看護推進協議会委員 理事 玉木 英樹（再任）
9. 県各種委員会等の結果報告について
 - 三浦副会長
 - ・山口県社会福祉審議会 （11月24日）
 - 水田副会長
 - ・山口県医療費適正化推進協議会 （1月17日）
 - 神徳理事
 - ・山口県在宅医療推進協議会 （12月22日）

内山理事

・健康やまぐち21推進協議会 （10月20日）

平成28年度 第1回地域医療委員会

日 時 平成29年3月1日（水）15：00～16：30

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 地域医療構想調整会議について
2. その他

平成28年度 第2回診療報酬改定影響度調査検討委員会

日 時 平成29年3月7日（火）15：00～16：30

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 平成28年度診療報酬改定影響度調査票について
2. 災害時必要物品並びに設備、施設に関するアンケートについて
3. その他

平成28年度 第4回情報管理委員会

日 時 平成29年3月21日（火）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 4月号の発行について
2. 7月号の発行準備について
3. その他

事務長部会コーナー

山口県病院協会事務長部会 各支部会議報告

開催支部と研修会等テーマは次の通り

【宇部・山陽小野田・美祢支部】

開催日 平成29年2月16日（木）
 場 所 国際ホテル宇部
 講 演 テーマ 「職場のメンタルヘルス（パワハラについて）」
 講 師 独立行政法人労働者健康安全機構
 山口産業保健総合支援センター
 メンタルヘルス対策促進員 益田 幾久江 氏



宇部・山陽小野田・美祢支部

【山口・防府支部】

開催日 平成29年2月21日（火）
 場 所 山口県総合医療センター
 講 演 テーマ 「山口県地域医療構想（山口・防府保健医療圏）
 と今後の議論の進め方について」
 講 師 山口県山口健康福祉センター
 保健福祉企画室長 吉屋 成人 氏



山口・防府支部

【長門・萩支部】

開催日 平成29年3月3日（金）
 場 所 都志見病院
 講 演 テーマ 「医療動向について」
 講 師 日本光電工業株式会社 営業本部 中央営業部
 井上 淳也 氏
 議 題 連絡事項・情報交換など



長門・萩支部

【岩国・柳井支部】

開催日 平成29年3月3日（金）
 場 所 岩国国際観光ホテル
 議 題 ・役員改選について
 ・有給休暇の取得状況
 ・各ハラスメント等について
 ・人員不足の対応状況について
 ・メンタルヘルスについて
 ・その他



岩国・柳井支部

【周南支部】

開催日 平成29年3月13日（月）
 場 所 ホテルサンルート徳山
 議 題 ・事務長会の「年会費」及び「会則」について
 ・各医療機関の近況報告
 ・周南支部の幹事異動について
 ・その他



周南支部

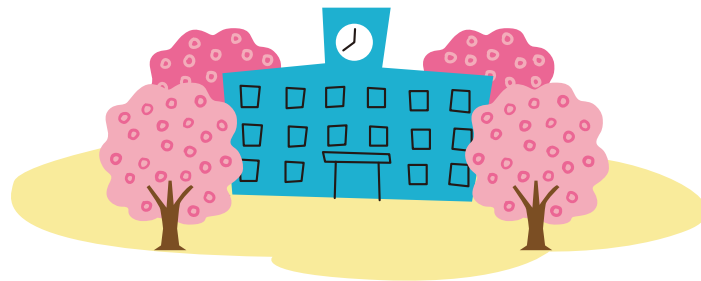
お知らせコーナー

正・副会長、顧問会議

平成29年3月8日（水）、山口市湯田温泉「古稀庵」において、定例の山口県病院協会正・副会長、顧問会議が開催されました。木下会長、三浦副会長、水田副会長、江里顧問、貞國顧問、小田顧問と事務局長の計7名が出席して、来年度の事業計画などについて協議を行いました。

山口銀行との金融懇談会

平成29年3月10日（金）、山口市湯田温泉「松田屋ホテル」において、山口銀行との懇談会が開催されました。山口銀行から吉村猛頭取他計4名が出席、山口県病院協会及び医療関係4団体（日本病院会山口県支部、全日本病院協会山口県支部、山口県医療法人協会、日本精神科病院協会山口県支部）から代表役員と事務局長の計5名が出席して、県内の経済金融情勢・医療環境等について意見交換を行いました。



～事務局からのお願い～

病院の住所や理事長・病院長先生並びに事務長、診療科目・病床数などに変更があった場合は、当協会事務局（FAX：083-923-3683）までお知らせください。

なお、変更届の様式は協会ホームページ（<http://www.yha.or.jp>）より印刷することができます。

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|--------|-------------|------------------|
| ○5月12日 | 第1回理事会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○5月24日 | 山口県病院協会定時総会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○6月19日 | 初級職員研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○6月中旬 | 医療懇話会 | （会場：未定） |
| ○6月中旬 | 第1回事務長部会研修会 | （会場：山口グランドホテル） |

編集後記

桜の花とともに、各病院は新採用職員を迎えられたことと思います。私どもの病院では、新採用職員数はここ3年で少しずつ減少しています。大きな原因は平均在院日数の短縮に伴う病床利用率の低下です。県の地域医療構想にも病床数の大幅な削減が盛り込まれていますし、病院が今後少しずつ小さくなることは間違いないと思います◆新社会人が職場のリーダーになる20年後、30年後の医療の姿はどうなっているのでしょうか。本号の役員コーナーでは竹重理事が「AIが医療現場にやってくる」というコラムを寄せられていますが、医療現場に何らかのイノベーションが起こっていることは確実だと思います。入職式で、AIを搭載したロボットが新人のガイダンスを行うという世界も否定は出来ませんが、「医の心」はやはり人間にしか理解出来ないのではと思います◆社会人となった皆さんが、医療人としてのやりがいや生きがいを感じられる職場であればと思います。

（名西史夫）